通信

HP 学校だより
R3. 12. 15
NO. 32
文責　伊藤美佳

大きな声で応援したくなった　マラソン大会

１２月９日（木）雲一つない晴天の中、マラソン大会が行われました。

９時１５分に２年生女子がスタートし、全員ゴールしたところで男子スタート。その後、１年、３年、４年、５年、６年と順にスタートしました。どの子も走る前からやる気に満ちた顔つきで、今か今かとスタートの合図を待っていました。それぞれに目標をもって走ろうという気持ちが、その顔つきにつながったのだと思います。

６日、７日と雨が降り、ようやく晴れた８日もグラウンドコンディションが悪く、校外のみの練習となりました。そんな状態で迎えた大会当日。練習不足は否めません。それでも子供たちは、持てる力を出し切って走ろうとしていました。順位やタイムはその時の結果で確かに大切です。しかし、全力で走りきったり、一生懸命に応援したりできた子供たちの姿が見ている私たちに感動を与えてくれたことを考えると、結果だけでなく、過程の大切さを実感しました。

閉会式で「マラソン大会はどうでしたか？」と聞くと、校舎内から「楽しかった。」の声がとてもたくさん聞こえてきました。子供たちのたくましさに驚くとともに、そんなたくましさが「生きる力」となるように、今後も大切にしていきたいです。

《自分たちで》

最近、「自分たちで〇〇をやりたい」と伝えに来てくれる学年が多くなったように思います。６年生からは、「マラソン大会後のチャレンジタイムに６年生の企画した鬼ごっこをしたい。」と提案がありました。他にも、学級でサプライズ企画を自分たちで実行したり、全校のみんなに楽しんでもらえるような会を計画したり、子供たちが自主的に動き始めていることがとてもうれしいです。

これは、トヨサカップ２０２１で６年生が学年部の競技を企画運営してくれた姿を見て、「あんな風に自分たちもやりたい。」そう考えてくれたとしたら、「あこがれの連鎖」が起きている証拠です。また、とよさかっ子 Day の内容を自分たちで企画運営した学年もあり、その経験が大きく影響しているかもしれません。

私たち大人は、ついつい子供たちがすることに「転ばぬ先の杖」を出してしまう傾向にあります。しかし、「自分でできた」「自分たちでできた」という経験は、失敗しつつもそれを乗り越えた先に感じることのできる大きな財産です。そして、たくさんの「できた」が自己肯定感につながります。子供たちの成長を見守っていきたいです。